1. 国旗一覧表（国旗の由来説明あり）

アジア

アゼルバイジャン
1918年から1920年までの国旗を修正して現在の国旗の形になった。上の青色はトルコ国旗を表し、下の緑はイスラム教徒を表す。中央の赤は近代化への貢献を表現していて、月のかたの月象徴はこの国に住む3つの民族に由来している。

アフガニスタン・イスラム共国
この国のたくさんの政変や国旗に影響された、国旗は20世紀の間に16回も変更されている。一番新しい国旗は、アフガニスタン王国の時代のデザインをもとに、統章の大きさや色合いの部分を補正し、憲法法が施行されたのを機に掲げられた。

アラブ首長国連邦
連邦の7つの国のうち、フジャイラ以外は赤白2色の旗がある。連邦大統領国は、中央の白色の部分に、隣に国旗と7つの星をつけたタカの国章がデザインされている。

アルメニア共和国
1918年から1921年まで使用された旗の比率が変わったものが現在の国旗。赤色は共和国のために流れていった人たちの血を表し、青色は永遠の国土を表現、オレンジ色は勤労と勇気を表現してデザインされている。

イエメン共和国
南イエメンと北イエメンの統合時にできた旗である。赤色は自由を南北の統一のために流された血を表し、白は輝ける未来を表現。黒は、以前の暗黒の時代をイメージしてデザインされている。

イスラエル国
19世紀末のユダヤ建国運動時に使用されたものがもモチーフ。白と青は礼拝のときに使うショールの色に由来し、真ん中には「ダビデの盾」が配置されている。ダビデの盾は、ユダヤ人が昔からお守りとして大切にしてきたものである。

イラク共和国
横に3色配置された旗の赤は勇気を、白は寛容を、黒はイスラム教の伝統と史実を表している。国旗の真ん中、イスラム教を表す緑色のアラビア書道クーフィー体で、「アラーの神は偉大なり」と書き加えられている。

イラン・イスラム共和国
横3色縦・白・赤で構成され、白の周端には「アッラー・アクバル（アラーの神は偉大なり）」とアラビア文字で11回、計22回書かれている。中央の4つの三日月と剣では、イスラム教徒の五行を表現したものである。

インド
サフラン色は、自己犠牲の精神と勇気を表し、緑は冒険談達と信仰、白は平和と真実を表している。インドの国旗は、本来はサフラン色と緑はそれぞれにヒンドゥー教徒とイスラム教徒に由来している。

インドネシア共和国
13世紀にできたマジャパヒト王国が赤と白の2色の国旗を使ったのが発祥。1928年にインドネシア国民党がメラプで最初に掲揚した。配色はモナコ国旗と同じであるが、インドネシア国旗は縦横比が2：3となっている。

ウズベキスタン共和国
上段の青は生命の源である水を表し、中段の白は平和を、下段の緑は実り豊かな自然を表す。間の赤い線は、生命力を表現。新月はイスラム教国であることと国の独立のシンボルである。12個の星は王道十二宮に由来している。

オマーン国
1970年までは、赤一色だけの国旗が採用されていた。赤は侵入者に対して戦った争いを表し、緑は実り豊かな国土を表現。白は平和と繁栄のシンボルで、旗竿側に紋章があしらわれている。これは、オマーン古来の剣と短剣カンジャルを組み合わせた国章である。

カザフスタン共和国
青色は、カザフスタンの遊牧民が見ていた澄み きった空の色で、平和と幸福のシンボルである。真ん中に描かれた黄色のワシと太陽は、それぞれ自由と明るい希望を表現し、旗竿側のアラベスク文様はカザフ民族の伝統的な装飾をこの国の模様の表現を表現しているとわれる。

カタール国
現在ではエビ茶色が正式な色であるが、もともとは赤が太陽光線で濃色したものだったわけである。左側の白のジグザグ模様は、この国がタンの行政区で構成されていることを表すという説と、ドイツ国分とは関係ないという説がある。

カンボジア王国
独立してから何回も変更されているが、世界遠産のアンコールワット遺跡は、政権が変わっても唯一の国旗のデザインに採用されていた。旧王国時代の国旗が復活したもので、1976年から1970年に使用されていたものと同じ。

キプロス共和国
国の中央にキプロス島をかたどったデザインが描きれ、その下にオリーブの枝があしらわれている。国連旗の発想と似通っている。オリーブの枝は、トルコ系とギリシャ系の両国民の平和と協力を表し、黄色は古来からの特産品や銅などの豊富な地下資源を表現している。

キルギス共和国
赤地に、黄色でキルギスの伝統的な移動式住居「ユルト」の天井と太陽が描かれている。太陽が放つ40の光線は、この国の代表的な40部族を表している。キルギス民族を統一した英雄マナスが赤旗を使用したことと由来しているといわれている。

クウェート国
黒、緑、白・赤を配置したデザインで、この4つの配色はアラブ諸国で多く使用されるため汎アラブ色といわれている。左側に黒の台形を表しらったお旗で、以前のイラク国旗の影響が大きい。

サウジアラビア王国
地色の緑は、イスラム教の聖なる色である。右から左にアラビア文字で「アッラーのほかに神は存在しない。マホメット（ムハンマド）はアッラーの預言者である」と書かれている。剣は聖地のメッカを守護する意味合いを持っている。

ジョージア
12世紀から14世紀にかけて使われた中世ゲルジア国旗（サアカシヴィリ大統領が率いる与党の「国民運動」の党旗にもなっている）をもとにして作られた。中央の大きな赤十字の四隅に5つの小さな赤十字を描いていて、エルサレム十字と呼ばれている。

シリア・アラブ共和国
1932年に自治国家となってから国旗を6回変更している。ほとんどが赤・緑・黒のストライプを使用していて、現在の国旗は1958年から1961年までのアラブ連合国のときの国旗が復活したものである。緑は実り豊かな国土を表現、黒は法の尊厳を、赤は流血の犠牲を、緑の星は美しい大地と建国の統一を表現。

シンガポール共和国
植民地だった1959年に規範されたが、マレーシア連邦の一時期だけは、国旗として採用されていた。赤は世界全体国の友好と平等を表し、白は富自と美徳を表現。5つの星は「民主主義・平和・進歩・正義・平等」が連携することを願い、三日月は発展する国家のシンボルである。

スリランカ民主社会主義共和国
独立した3年後に、イスラム教徒を表す緑と、ヒンズー教徒を表すオレンジ（サフラン色）のライン が採用された。剣をもつライオンは、この国のシンハラ人の伝説に出てくる勇敢な人物。四隅の菩提菩提樹で、スリランカの約70%を占める仏教徒を表現している。

タイ王国
「トン・ドライロイン」（三色旗）と呼ばれている。1916年までは赤地に白象をデザインした国旗だったが、国内を巡視していた国王が古たまに遭遇されていた国旗を見て、上下左右を反対にしても同じ民族を国旗に変えたという逸話が残っている。

大韓民国
赤と青のとも大が中央に描かれている。ともえは韓民族に昔から親しまれてきたデザインで、中央の図柄は陽陰五行説に由来している。国旗の原案は、朝鮮王朝の末期の国王である高宗によるもの。

タジキスタン共和国
真ん中の紋章はさまざまな階級の人々の統一を表現。赤は主権と労働者を表し、白は神聖と知識人、緑は農産物と農民の象徴である。赤・白・緑の配色がイラン国旗と同じなのは、タジキスタンの民族がイラン系であるから。

中華人民共和国
「五星紅旗」と呼ばれ、1949年に3000はどのデザインの中から コンテストで優勝した歴連紅のものを修正して国旗にした。中国革命と中国人民の一致団結のシンボルであり、階級や民族を表すという説は否定的である。

朝鮮民主主義人民共和国
上下の青いラインは平和への関心を表し、赤は人民の不屈の精神と社会主義であることを、星は朝鮮労働党の指導的役割を表現。白は古来からこの国の人たちが親しんできた色で、純潔と光明のシンボルである。

トルクメニスタン
独立してから32年の国旗にある。地色の緑はイスラム教を表し、右列は将来の未来を、5つの星は人民を表している。旗竿側に伝統意匠の絨毯模様が描かれ、各部分は トルクメンの古から部族を表現。模様の下側にはオリーブの枝が配され、永中立のシンボルとなっている。

トルコ共和国
アイ・イルディズ（月と星）と親しみを込めて呼ばれる新月旗。オスマン帝国の新旧国歌の歌詞を、奉ゼした国旗にした。将来コンスタンチノープルを征服することを予言したという逸話が残っている。

ネパール連邦民主共和国
1962年までの国旗には月と太陽に即が描かれていた。3角をつつ重ねた形しい国旗である。上の月は王室を表し、下の太陽は家柄一家を表現している。この国旗は、1990年に民主化運動が起こり、その時、民主主義の国旗として使用された。1990年の「国旗憲法」で正式に法で定められた。7：10の比率で、日の丸の中心が左寄りのものも許容されている。

パキスタン・イスラム共和国
1906年に結成された全インドムスリム連盟党の旗をもとにしてできた。独立時に左側に少数民族の象徴である白い縦ラインを配した。緑色は、国の定めた国旗の色であり、黒は豊かな自然資源を、緑は森林と肥沃な国土を表現している。

バーレーン王国
かつての国旗はジグザグ模様が8個だったり直線だったが、バーレーン王国に国名を変更した際に国旗と民族衣装の五枚目ボタンを変えた。赤色はペルシャ湾諸国に昔から親しまれてきた色である。

バングラデシュ人民共和国
緑地に中央やや右寄りに赤い円が描かれる。独立戦争時に国内の中に金色の地図のデザインだったが、旗の両面に表示するのが難しいので現外された。緑は豊かな大地を表し、赤は独立戦争で流された血を表現。

東ティモール民主共和国
1975年11月に独立宣言をした際に使用された国旗を修正した国旗である。赤は独立戦争で流された血を表し、黒は植民地時代の現象と完服するべき国編を、黄色は植民地主義の伝統を表現。白は平和を表し、星の形は未来への希望のシンボルである。

フィリピン共和国
1898年に各国に亡命していた愛国運動により最初の旗が掲揚された。青は高潔な理想を表現し、赤は国民の勇気を、白は平和と平等を表現。太陽は自由を表し、8条の光はスペインに最初に抵抗した州を、3つの星はルソン島・ミンダナオ島・ビサヤ島の象徴。

ブータン王国
旗に竜を配するのは、国民に断揉されているのと同時に中国の影響を受けているから。黄色は王家の権威を表し、オレンジ色はラマ教（チベット仏教）の修行を、白は純潔と忠誤を象徴している。

ブルネイ・ダルサラーム国
はじめの国旗は黄色の1色だった。1906年に白と黒の斜めライン が加わり、1959年には中央に国章を配するようになった。国章はイスラム教を象徴する新月と、平和を象徴する両手を添えるデザインとなっている。

ベトナム社会主義共和国
金星紅旗（ベトナム語でコートーサーオ・ハーン）と呼ばれ、1955年までは星の角度が現在より少し大きかった。五芒星はベトナムを構成する労働者・農民・兵士・青年・知識人の5つの社会階層の象徴となっている。

ヨーロッパ

アイスランド共和国
同じデザインで青と赤を取り替えるとノルウェーの国旗になる。白と青は民族衣装として長年国民に親しまれてきた色で、1897年に非公式に取り入れられた旗も、青地に白の横長の十字が描かれたもの。

アイルランド
以前のアイルランドの旗は、緑地に黄色のハープ模様の非公式だったが、友情の緑色はカトリックを、白色のオレンジ色はプロテスタントを表し、中央の白は両教徒が融和することを表現している。

アルバニア共和国
双頭のワシは、15世紀に民族の英雄であるスカンデルベグが掲げた旗から受け継いだものの。アルバニア人は、ワシの子孫という伝説に由来する。社会主義政権がくずれ、以前はあった星のデザインがなくなった。

アンドラ公国
紋章と色のデザインが、フランスとスペインの国旗の影響を受けている。1866年に国旗が掲げられてから、さまざまな変遷を経て、1996年に現在の形に落ち着いた。

イギリス（グレート・ブリテン・北アイルランド）連合王国
イングランドの白地に赤十字、スコットランドの青地に斜め赤十字を組み合わせ、アイルランドの白地に斜め赤十字を足して連合王国を表現している。

イタリア共和国
緑・白・赤の3色は、ナポレオンがかつたチザルビーナ共和国国旗から引でいて、フランス国旗の影響を受けている。イタリア市民用の海と国旗には、4つの海洋都市をモチーフにした紋章がデザインされている。

ウクライナ
青色と黄色は1848年に独立を目指した民衆がシンボルとして掲げたもので、1918年から1921年までは臨時政府の国旗として使用。1996年に比率を変更して今の形になった。青は空を、黄は小麦を表している。

エストニア共和国
1884年にエストニア学生会によって制定され、ソ連邦から再独立した際に主権国家として復活した。青色は空と自由、黒は祖国の大地を、白は自由への思いと明るい未来のシンボルとなっている。

オーストリア共和国
上段から赤・白・赤で構成されていて、十字軍が盛ぼした時代に、オーストリア辺境伯の治次が最の返り血でベルトの部分を除いて赤く染まった故事に由来する。政府用の国旗には、黒いワシの紋章が描かれる。

オランダ王国
16世紀後半のスペイン戦争時代に、オレンジ公にちなんだ上段からオレンジ・白・青の旗を使っていたのがもとになっている。その後、オレンジ色を赤色に変更したが、それは海で変色しやすいからといわれている。

ギリシャ共和国
もともとは、青に白十字の旗を、独立戦争の際のトルコの赤い断背旗に対抗するような形で掲揚されていた。9本の横線は、独立戦争時代の「Ἐλευθερία ἢ Θάνατος（自由か死か）」の9音節に由来する。

クロアチア共和国
赤・白・青は、スラブ地域で頻繁に使用される色である。海上で使用される国旗の比率は2：3である。真ん中に配置された国章は、古クロアチアの3地域を表現する紋章と、民族の模様であるチェック柄がデザインされている。

サンマリノ共和国
白と青はフランス革命の強から受用れている。青は空とアドリア海を表し、白はテイーター山の雪とたなびく雲、さらに純粋さを表現している。政府用の国旗には、3つの城と塔、王冠などがデザインされた紋章について、紋章下ではイタリア語で「自由（LIBERTAS）」と書かれている。

スイス連邦
ローマ帝国が1240年にシュビッツ州旗として制定した旗がもとになっていて、1848年連邦憲法による、陸上用の旗は正方形であるが、水上用の旗は比率が2：3で赤、十字はキリスト教のシンボル。

スウェーデン王国
横長の十字模様はスカンディナヴィアンクロスとその呼び名があり、北欧諸国に共通して使用されている。青と黄色は国章の色に由来していて、青は湖を表し、黄色は金色に輝く太陽を表現。毎年6月6日は国旗の日として祝祭を行う。

スペイン
「血と金の国」とも呼ばれ、赤と黄色は1931年当時の4つの王国の王冠に使用されていた色にちなんでいる。1785年以降はスペインのシンボルカラーとなっている。フランコ時代はフランコ国章をつけた、紋章には、キリスト教を表現するダブルクロスと国土のムがデザインされている。

スロバキア共和国
1848年にはじめて掲げられた旗は、スラブ民族のシンボルである白・青・赤の炎スラブ色の3色旗だった。チェコとかかれたときに、ロシア連邦の国旗と見分けがつくように国章をつけた。紋章には、キリスト教を表現するダブルクロスと国土のムがデザインされている。

スロベニア共和国
白・青・赤の3色は1991年独立からスラブ民族運動の象徴として用されている。スロベニアが独立ニゴから独立した際に国章がつけた。国章には、国土にある最高峰のトリグラフ山をかたどったものと、川と海を示す2本の波線、3つの金色の六芒星がデザインされている。

セルビア共和国
1930年に作られたセルビア公国の国旗がもとになっている。赤・青・白はスラブ民族独立の象徴となる色である。中央からやや左寄りに国章が配置され、国章には王冠と双頭のワシが描かれている。1991年から1993年までのチェコ共和国の国旗は紅白の横2分割の旗だった。

チェコ共和国
旧チェコ・スロヴァキア連邦共和国の旗を、スロバキアが独立した後もそのまま使っている。連邦共和国当時、1990年から1993年までのチェコ共和国の国旗は紅白の横2分割の旗だった。

デンマーク王国
現在の国旗の中で最古とされれ、スカンジナビアクロスの先駆け。1854年には市民旗として使われている。1219年のエストニア人との戦争のときに、指王のもとに旗がつくられたのをきっかけにして逆転勝利したという言い伝えがある。

ドイツ連邦共和国
黒、赤、黄（金）の3色は、19世紀のはじめにナポレオン軍と の戦争に加わった学生義勇軍の軍服の色に由来する。黒・赤・黄は そもそも中世戦争・情熱・名誉を表現していて、ドイツ国歌のシンボルである。政府用の国旗には7つの紋章が入る。

ノルウェー王国
かつてはスウェーデンとデンマークの支配下に置かれていたため、2つの国の国旗を組み合わせた図案になっている。北欧諸国の習慣として政府用の国旗は燕尾形をしている。

バチカン市国
バチカンの国旗は正方形。19世紀の初頭に教皇ピウス7世によって黄と白の旗に決められた。右側の国章には、三重冠と呼ばれる教皇が公式行事の際に かぶる冠が配され、交差する金と銀の鍵は聖伯両面で教皇が支 配することを意味している。

ハンガリー
赤・白・緑の3色旗。フランス革命の影響を受けて王武に採用されたものだが、動乱終しこの3色は使用されていた。赤は尊い血の犠牲と強さを表し、白は清らかな国民のひと忠実を、緑は希望を表現している。

フィンランド共和国
独立する前に六いろいろな提案がされたが、詩人ザクリス・トペリウスによって青の白と湖の青とそのフィンランドにふさわしいと主張され、それを採用。1978年に青の色調を明るくした。北ユーロッパ諸国に多いスカンジナビアクロスのデザイン。

フランス共和国
以前はたからも赤・白・青だった が、国面が青だと海の上では色が 溶け込んで目立ちの効果はうまくい かないとされ、左から青・白・赤に 変更した。赤と青はフランス革命 軍が帽子につけた帽章に由来し、 白はブルボン朝のシンボルである 自音会に由来している。

ブルガリア共和国
上段から白・緑・赤に染め分けた3色旗で、ロシア帝国の国旗をもとにしてデザインされた。白は純潔と親善と平和を表し、緑は農業と豊かさを、赤は愛国心と民族の勇気を表現。第主化後に国旗から国章を外した。

ベラルーシ共和国
かつては社会主義の象徴である ハンマー・カマ・星が描かれて いたが、国民投票の末にこれら を除外して旧ソ連時代の国旗に戻した。赤は栄光為る過去を 表し、緑は未来を表現している。

ベルギー王国
政府用の国旗の比率は13：15である。黒・黄・赤は、黒字に赤 い爪と黄色い舌の獅子が描かれた 旗を指合せて作った。赤は国土と農業を表し、黒はアフリカ大 陸、黄は鉱物資源を表現している。

ポスニア・ヘルツェゴビナ
三角形はこの国のシルエットで、黄色と青は ヨーロッパ連合の旗にちなんでいる。星の数には特に意味は込められていない。長野オリンピックが開催された直前に現在の図案になった。

ポーランド共和国
白と赤は中世から使用されてきた色。ポーランドが分割してから、外国の支配から独立を目指す象徴となった。政府用の国旗は、赤色の部分に白のワシをデザインした国章がついている。

ポルトガル共和国
王政時代には青・白の2色旗だったが、共和革命以降は共和主義者の緑のシンボルカラーを使用。旗竿側5分の2が緑、旗尾側5分の3が赤の配色。国章には7つの黄色い城・5つの青い盾・大航海時代の航海用具である天測儀がデザインされている。

マケドニア旧ユーゴスラビア共和国
赤地に8本の光線を描いた黄色い太陽の旗。1992年に採用した国旗は、アレキサンドロス大王にちなんだ星の紋章を配した旗だったが、ギリシャが反発した。そこで太陽光線の数を半分にするなどしてデザインを単純化して作られた。

マルタ共和国
左上に配されたキ十字は、住民がナチスドイツに抵抗したのを記念してイギリスから贈られたセントジョージ勲章に由来する。一説によると、中世にノルマン公が紅白でこの島の旗を作ったことにちなんでいる。

モナコ公国
赤と白の2色は、13世紀以降にこの地を支配し続けてきたグリマルディ公家の紋章の色。14世紀からモナコの国旗にもなっている。モルドバとルーマニアは同じ民族であるため深く関わっている。真ん中の国章は19世紀末で存在したモルダビアとウラキア両公国の紋章にちなんでいて、ワシとクジャクの頭などがデザインされている。

モルドバ共和国
中央の国章を除くと隣の国のルーマニアと同じである。モルドバとルーマニアは同じ民族であるため深く関わっている。真ん中の国章は19世紀末で存在したモルダビアとウラキア両公国の紋章にちなんでいて、ワシとクジャクの頭などがデザインされている。

モンテネグロ
赤地で周囲を金色で縁取り、真ん中に王冠をのせた双頭のワシの国章を配している。ワシの胸にはヨーロッパのライオンが使いつ金を描いた歴史がある。1918年から1940年に使用された旗をもう一度採用した。

ラトビア共和国
世界中の国旗の中でも、もっとも古い旗の1つである。1279年のドイツ騎士団との戦争で、指揮官の白い布についた血の色にちなんでいる。再独立のときに1918年から1940年に使用された旗をもう一度採用した。

リトアニア共和国
中世時代のリトアニア大公国は、四世紀に騎士をデザインした旗を使用していたが、今は1918年の独立時の旗の比率を変更して使っている。赤は祖国愛と勇気を表し、緑は豊かな森と希望を表している。黄色は小麦が実る平野と自由の象徴である。

リヒテンシュタイン公国
赤と青は、18世紀のウェンツェル公の時代の制服に由来しているとも いわれている。1936年のオリンピックの制服にこれらの色が使われ 始められたのが切っかけで翌年左上に大公の冠を配した。君は統治者と国民が一体となることを表現。

ルクセンブルク大公国
上段から赤・白・水色で構成されている旗。国章を表した国章は、赤色の部分に白のワシをデザインした国章がついている。

ルーマニア
左から青・黄・赤の3色は、19世紀末で存在したウラキアとモルダビアの2つの公国の国旗に由来している。王国時代や社会主義の時代には国章を加えていたが、今ではつけられていない。

ロシア連邦
帝政時代の国旗を復活させたもの。ピョートル大帝がオランダ国旗の色からとり、白・青・赤は スラブ3原色と伝えられる。ロ シアの2連邦時代に使用した旗は、社会主義国の旗のモデルとなっていた。

アメリカ

アメリカ合衆国
左上の旗率の位置には、州の数と同じ50の星が散りばめられている。旗国は独立した13州に由来する赤と白のストライプ13本で構成されている。一番はじめにできた星条旗から26回も変更を重ねた。

アルゼンチン共和国
真ん中に描かれている「月の太陽」は、対スペイン戦争の日に即に由来している。青は空と自由の象徴となっている。金色の5月の太陽は、大統領旗にもデザインされている。

アンティグア・バーブーダ
自治政府を立ち上げたときの国旗コンテストで優勝した後を使用している。黒は国民を、赤は青は海、白は砂浜、黄色は太陽を表している。赤は、未来へ向かって国民の活力を、イメージしてデザインされ、V字は勝利をイメージしている。

ウルグアイ東方共和国
青と白のストライプの部分の間色は自由を、白は平和を表している。ジンドンの「太陽の顔」は、ウルグアイの独立精神のシンボルである。9本の線になっているのは1930年の独立時に参加した9つの地方名、独立時にたアルゼンチンの国旗の影響を受けたデザインとなっている。

エクアドル共和国
黄・青・赤の配色は、以前コロンビアとベネズエラとともに構成していたグランコロンビア国旗にちなんでいる。自治体の建物には掲揚する国旗に州と同数の星が描かれている。エクアドル独自の習慣である。

エルサルバドル共和国
青は空と海を表し、白は平和と調和のシンボル。19世紀前半に、この国を含む5カ国で構成していた中央アメリカ連邦の国旗がもとになってできた。政府用の国旗の比率は19：33とよりうゆ長いものであり、真ん中には国章がデザインされている。

カナダ
「Flag Debate」と呼ばれる国旗選定をめぐる100年もの大論争の末に制定された。赤と白はカナダの国民色で、真ん中のメイプルリーフは1800年のイギリス皇太子訪問の際からカナダのシンボルとされている。

キューバ共和国
1850年に、キューバの独立運動でナルシシ・ロペスが掲揚した国旗が由来になっている。3本の青い線は独立したときの3州を表し、上の白線は独立運動に参加した者の階級を表現している。赤は鮮血で流された血で、三角形は自由と平等と博愛の精神を表している。

グアテマラ共和国
中央アメリカ連邦の旗の色にちなんだ国旗で、両端の青は太平洋と大西洋を表し、中央の白は平和と純潔を表現している。政府用の国旗には、1997年に変更された国章がデザインされている。紋章に描かれた国鳥のケツァールは自由の象徴。

ケイマン諸島
もともとはウガンダ人民会議の党旗に由来したもので、黄・黄・赤 の色のように、ケニアの国旗とよく似ている。国旗の真ん中には国鳥のカンムリツルをあしらい、黒はアフリカ人を表し、黄色はアフリカの夜明けの大陸を、赤は民族の融和と同胞愛を表している。

コスタリカ共和国
王政時代には青・白の2色旗だったが、共和革命以降は中央に国章が加えられた。国章には、アレキサンドロス大王にちなんだ星の紋章を配した旗だったが、ギリシャが反発した。そこで太陽光線の数を半分にするなどしてデザインを単純化して作られた。

コロンビア共和国
黄・青・赤の3色で構成され、1930年まで使われたグラコロンビアの国旗がもとになっている。上の黄色は黄色の金を表し、下段の赤は国家主権シンボルを表現。中段の青は新大陸と旧宗主国スペインとの間の大西洋を表現しているとわれる。

ジャマイカ
はじめに考案された旗は日タンザニーカの国旗と見分けがつきにくかったので、デザインを変えられた。緑は天然資源と希望を表し、黄色は太陽の輝きと豊かさを、黒は人々の不屈の精神を表現している。黄色の大型は聖アンドリュースの十字架を表したもの。

スリナム共和国
緑はジャングルと平野を表し、白は正義と自由を、赤は進歩と繁栄を表している。赤い線は民族の団結と輝ける未来のシンボルである。独立する前は自治共和国の旗をもとにしていた。星の数は、1975年の独立時に参加した10の地区を表している。

セントクリストファー・ネーヴィス
緑は農業と豊かな国土を表し、黄色は太陽の光を、黒はアフリカ系の黒人を、赤は独立闘争を表現している。星は自由と希望のシンボルで、2つあるのは、セントクリストファー（セントキッツ島）とネイビスを表現している。

セントビンセント・グレナディーン連合
青は空と海を表し、黄色は熱帯の太陽の光と美しい海岸を、緑は植物豊かな国土の活力を表現している。中央の菱形を組み合わせた V字形でこの国の旗文字を表す。独立のときに国の歌を記念して、紋章を菱形に変更した。

セントルシア
三角形はセントルシア島を表し、青地は大西洋とカリブ海を、黒と白は黒人と白人の団結を、黄色は太陽の光と国土を表現している。黒のくさび形は活火山ピトンはのシンボルである。

チリ共和国
星条旗の影響を受けているが、青・赤・白の3色はチリの先住民が古来から使用してきた色である。青は澄んだ空を、白は アンデスの雪、赤は独立闘争で流された尊い血を表現している。

ドミニカ共和国
ハイチから独立したための同盟の赤・青の2色を反映して作られた。現在は2色が交互に配置されている。独立した直後は白テ の上が青で下が赤だった。独立闘争の際には共通性のヤシ・聖書・十字架などが描かれた国章がついている。

ドミニカ共和国
真ん中の青は、国旗のエラドボウインフとしゃうそこである。緑の星10個は、10の行政区を表し、緑は森林と国土の活力を、赤いV字は社会変革のことを表現。黄・黒・白はそれぞれの肌色の人種を意味している。紋章学上の理由から国章が幾度も変更されている。

トリニダード・トバゴ共和国
赤は火と未来、黒は土と過去を、白は太と現在を表している。1962年に独立したときに、2本の白線はトリニダード島とトバゴ島を表し、全国民の平等のシンボルとしてもなっている。独立前はイギリスの植民地だったので、市民用の海上国旗の比率は1：2の横長である。

ニカラグア共和国
旧中央アメリカ連邦旗を継承していて、青と白の2色旗である。国章の中央の3つの火山は、以前連邦を構成していた中米5カ国を表現。国章の下には、正式名称国名（REPUBLICA DE NICARAGUA）で、下 側 が 中 央 ア メ リ カ（AMERICA CENTRAL）である。

ハイチ共和国
フランスから独立時は、青・赤・白の3色旗から白を除外した。青は黒人を表し、赤は黒人と先住民の混血である人ラートの象徴で、政府用の国旗には、1964年以降 と加えた国章が配される。紋章には ヤシの木・自由の帽子・剣為・旗・ 大砲などが描かれている。

パナマ共和国
コロンビアから分離独立する際にアメリカの後押しがあったので、星条旗の影響を強く受けている。赤は民主党を表し、青は保守党を表現。白は国旗全体の 解と平和を表し、2つの星は国民の理想の象徴である。

バハマ国
上下の2本の青ラインは、バハマ諸島の美しい大海洋とカリブ海を表現。中央の黄色のラインはこの国の島々と砂浜を表し、左側の黒いV為形は国民の強い国結の象徴である。独立する前は英国船舶旗の上にバッジを配した旗を使用。

バルバドス
独立時に実施されたコンテストで優勝した美術家のグラント・ワ・ブレスコットの図案を採用。青はカリブ海と太平洋と全 ての海を表し、黄色は砂浜と麦を表 現。真ん中のマークは海神ポセイドンの三叉の矛である。

ブラジル連邦共和国
青い円は天体を表し、リオデジャネイロの空を1889年11月15日の朝に地球の外から見た形 を表現している。27の星は連邦を構成している26州と1連邦首 都区の象徴である。緑は森林、黄は鉱物資源を表現。

ベネズエラ・ボリバル共和国
1811年は国は黄・青・赤の3色旗を使用しいる。2008年に変更が1度 加。 隼ゼした星は解放者のシモン・ボリバルに由来するもので、チベ ネズエラ共和国のボリバル革命のシンボルともなっている。国章には 鳥・熱帯 果実・サーベル・白馬・麦の束・月 桂樹・ヤシなどが描かれている。

アフリカ

アルジェリア民主人民共和国
1920年代に反フランス運動の指導者となったメッサリ・ハジが作り、民族解放は、青地に白 の三日月と星が描かれている。この旗は、緑と赤の組合せのもとになっている。

アンゴラ共和国
アンゴラ解放人民運動（MPLA）のときに使われた旗 に、工場で働く人々を表した歯車をつけ加えてデザインした。政府用の国旗には、1997年に変更された国章がデザインされている。紋章に描かれた国鳥のケツァールは自由の象徴。

ウガンダ共和国
もともとはウガンダ人民会議の党旗に由来したもので、黒・黄・赤 の色のように、ケニアの国旗とよく似ている。国旗の真ん中には国鳥のカンムリツルをあしらい、黒はアフリカ人を表し、黄色はアフリカの夜明けの大陸を、赤は民族の融和と同胞愛を表している。

エジプト・アラブ共和国
上段の赤は革命を、中央の白は 神聖さを、下段の黒は過去の暗黒 の時代を象徴している。真ん中に配置された国章は、「サラディンのタ」と呼ばれる国章である。王冠の部分には、緑地に白い新月と3つの星がデザインされた国旗だった。

エチオピア連邦民主共和国
上段から緑・黄・赤の配色に なっていて、古来からエチオピア で使用されてきたもしみ深い色である。アフリカ諸国の独立の際に、国旗の見本となったのが 汎アフリカ色と呼ばれている。真ん中にはソロモンの印章が配置されている。

エリトリア国
3色の三角形で構成されていて、緑色は農業を表し、赤は独立のために流された血を表現している。青は豊富な海洋資源を、中央に描かれた黄色のオリーブの枝は平和を表している。1995年、オリーブのデザインを少し変更した。

ガーナ共和国
上段から赤・黄・緑の「汎アフリカ色」 旗にあらってアフリカ最古の独立国家であるエチオピア国旗に与えている。黄色は伝説上の国王ソロモンの印章を表現している。真ん中には、ユダヤ人の象徴のオリーブの枝は平和を表し、アフリカの独立運動の父といわれるガーナの初代大統領を表現していて、自由の誕生への意味込められている。

カーボヴェルデ共和国
青は空と海を表し、白は平和、赤は国の努力を表している。紅白の帯は国旗が作られ始めてから変わらずにいて、黄色の10の星はカーボヴェルデ諸島の主な島の数を表し、独立に協力した国々を表している。中央の黒の星は、アフリカ諸国と南大西洋を表し、黄色は輝く太陽を表している。

ガボン共和国
上段の緑は経済を支える豊かな森林を表し、中段の黄色はガボンを横切っている赤道を表現している。下段の青は、水資源と海洋資源を表している。紅白の帯は国旗が作られ始めてから変わらずにいて、黄色は輝く太陽を表現している。

カメルーン共和国
左から緑・赤・黄の汎アフリカ色で構成されている。独立後何回か変更されているが、1975年に現在の形になった。緑は国の南部にある豊かな森林地帯を表し、黄色は輝く太陽と国の統一を表している。赤は栄光のシンボルとなっている。

ギニア共和国
汎アフリカ色と呼ばれる赤・黄・緑の配色で構成されている。赤は尊い血の犠牲を、黄は金鉱を、緑は豊かな国土を表現している。独立前は紋章を使っていた。

ギニアビサウ共和国
汎アフリカ色と呼ばれる赤・黄・緑で構成される。ギニア・カーボ ベルデ（アフリカ人独立党 （PAIGC）の旗にもとづいて考案された。黒は独立闘争の犠牲者を表現。赤は海岸地帯を表し、黒星は独立 アフリカ党のシンボルである。

ケニア共和国
黒はケニア共和国の国民を表し、赤は独立で流された血を、緑は農業と肥沃な大地を表す。白線は平和と国民の統一を表現し、真ん中の紋章はマサイ族の盾と槍で、国旗と独立のシンボルとなっている。

コートジボワール共和国
旧宗主国であったフランスの影響を受けていて、3本の等長は国の理念である「自由・規律・労働」に対応。左側のオレンジは北部サバンナの繁栄を表し、緑は南部の熱帯雨林の豊かさを表現。白は北部と南部の統一と団結を表している。

コモロ連合
独立してから回国旗が変わっていが、いずれも新月と4つの星がデザインされている。新月は、イスラム教を表し、白は自由と純潔を、赤は独立のために流された血を、青はインド洋を表している。また、青は「月」と呼ばれるコモロ（フランス語）、赤は「クランドコモロ」を、白は「スプコ」の語を表現しているとしられる。

コンゴ共和国
コンゴ人民共和国からコンゴ共和国に国名が変えたのをきっかけに、1958年から1970年まで使用された緑・黄・赤の汎アフリカ色の国旗に変えた。緑は農業と未来への希望、黄色は誠実さと友愛、赤は尊い血を表現している。1991年までの人民共和国時代にはハンマーとクワをデザインした赤旗だった。

コンゴ民主共和国
独立してから6回目の国旗で、1963年から1971年当時の国旗に戻して青の色調を明るくする ことで、青は平和を表し、赤は独立 のために流された尊い血を、黄 色は豊かな国土を表現している。独立直後 時のサントメ・プリンシペ解放運動 の党旗がもとになってできた。

サントメ・プリンシペ民主共和国
汎アフリカ色で構成され、中段の黄色は大地を表し、上下の緑は豊かな自然を、赤は独立のために流された血を表現している。中央のワシの黒い星は、サントメ島とプリンシペ島の2つの島を表している。右の羽毛はアフリカ大陸の象徴である。独立直後 時のサントメ・プリンシペ解放運 動の党旗がもとになってできた。

サンビア共和国
地色の緑は農業と天然資源を表し、赤の縦ライン は自由を勝ち取るために流された血を表現。オレンジ色は鉱山 業と平等を表現している。中央のワシの黒い星は、サンビアが国 連の加盟国であることを表現している。中央のワシの黒い星は、 サンビアが国連の加盟国であることを表現している。

シエラレオネ共和国
上段の緑は農業と山岳などの天然資源を表し、中段の白は平和と正義を表している。下段の青は首都フリータウンと大西洋を表し、緑は農業と、白は純粋と調和を表している。黒は、白と緑を組み合わせて5色で構成され、下段ライン の白は、両者が持っている赤 いと焦熱のシンボルである。緑 は農業と森林部の住民を表し、黄 色は地下資源とサバンナ地帯の住 民を表現している。

ジブチ共和国
白は平和の象徴で、青は空と海を、緑は地球を、赤は尊い血の犠牲を表している。国旗の比率は縦横比が2：3であるが、実は、横は マリリ系ィッ ティ ッ ク 系 の 比 率 で 2：3 で 、 縦 は 黄 金 比 で 2：3 で 、 国 旗 の 縦 横 比 の 2 通 り 示 す ら れ る 。 国 旗 の 中 央 に 描 か れ た 国 章 は 、 白 い 三 角 形 で 2 つ の 民 族 が 平 等 に 団 結 することを表現している。

スーダン共和国
1956年～1970年まではガボンの国旗の色を反対にしたようなデザインだった。アラブ諸国の影響を受けて、赤・黒・緑の汎アラブ色の国旗を制定した。赤は革命のシンボルであり、黒は国民を、白は平和と未来への希望を表現している。緑の三角形はイスラム教徒の象徴を表現している。

スワジランド王国
第2次世界大戦のさなかに、イギリス軍に渡して戦ったスワジ人国の国旗をもとにしている。中央の白は自分たちの過去の歴史を表し、青は空と平和を、黄色は豊富な鉱物資源を表現している。真ん中にはヤリ・盾・戦闘棒や、祭り天人鳥の羽がついた王のしゃくとがデザインされている。

セーシェル共和国
左下から放射状に5色が配置されていて、赤から順に青は国と海を表し、黄色は太陽を、緑は農業と国民を、白は正義と調和を表している。独立してから3番目になるこの国旗は、政党が調和するために全政党の旗色を組み合わ